

# 新潟

上・中越

新潟支局  
〒951-8551  
新潟市中央区白山浦  
1-336  
電話 025-233-5111  
FAX 233-5211  
メールはniiigata@yomiuri.comへ

長岡支局  
〒940-0094  
長岡市中島4-3-12  
電話 025-33-0435  
FAX 35-2968

上越支局  
〒943-0803  
上越市春日野1-4-19  
電話 025-523-2887  
FAX 522-5780

一通信部  
柏崎 22-2644  
南魚沼 772-2242  
新潟 22-2581  
佐渡 51-4033

広告のご用は  
新潟 025-243-3701  
旅行のご相談は  
長岡 0258-32-1238

購読配達のご用は  
長岡 32-1565  
長岡南部 36-8959  
長岡西部附尾 47-3065  
63-4076  
52-2446  
92-6860  
32-7808  
66-6673  
E22-2714

東京の食肉加工会社「ミートコンパニオン」が、十日町市高山に設ける冷凍食品工場に、製造過程で出る動物性油の廃棄物「フロス」を燃料とする新ボイラーシステムを本格導入した。同市の機器販売会社「グリーンエナジー」が開発したもので、これまでフロスは水分含有量が多く、焼却などの処理が不可能とされてきた。燃料として再利用することで重油の使用を抑え、大幅な二酸化炭素( $\text{CO}_2$ )削減、経費節約が図れるという。

市が、地球環境に優しい新エネルギー活用を目指す「バイオマス発電構想」に基づいて導入をバックアップした。ミートコンパニオンが昨年、原油価格の高騰を受け、市民生活課に対応策を相談。グリーンエナジーを紹介されたという。

この「バイオマスボイラーシステム」導入に際しては、農水省から工場廃棄物を活用する循環型社会推進のための「バイオマス利活用交付金」を受けた。総事業費は5600万円。10月26日から稼働している。

ミートコンパニオンではこれまでフロスの処理を専門業者に委託し、この費用が1立方メートル当たり3万円、年850万円。また、商品の煮込みや殺菌などに使う温水を加熱するための重油代に、年約1800万円かかっていた。

新ボイラーシステムの導入で、重油使用量が少なくとも

年2割削減でき、これにより二酸化炭素( $\text{CO}_2$ )排出量を、スギ1万本分以上にあたる年約140トント、経費も燃料費と産業廃棄物処理費を合わせ、年約960万円削減できるという。

さらに、廃棄物処理業者が回収するまでタンクに貯蔵してきたフロスの悪臭問題も改善。排水の水質も向上している。新ボイラーシステムでも $\text{CO}_2$ は出るが、これは新たな排出分とはならない。燃料であるフロスの元は牛で、この牛が食べた植物が、もともと大気中から吸収していた $\text{CO}_2$ に由来するためだ。

ミートコンパニオンは「食品加工業者にとって一番やつかないフロスを燃料にできるのはありがたい」としている。また、市では「稼働から1か月だが、成果が出ている。同じような取り組みが広がれば、循環型社会の実現に近づく」と期待している。

# 牛肉廃油でボイラー

**CO<sub>2</sub> 140トン削減  
重油使用2割減**

十日町の食品工場



フロスを燃料とするバイオマスボイラー（十日町市高山のミートコンパニオン新潟第二工場で）

県と協議することも、「実関係が分からぬのでまることも考える」ことが必要」—旧村松町地域に農学部演習